

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 7日

事業所名 ぶるーべりー石橋

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	25%	75%	レイアウト・間切り	手狭であると思うので広さが感じられるように物の配置など隅に置くようにしている
	2	職員の配置数は適切である	50%	50%		職員が多いと部屋が手狭に感じてしまう
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%		定期的な見直し
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	ミーティング	定期的に開催し、向上・改善を図る
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	88%	13%	SNS・ミーティング	話し合う機会、SNSで残しておくことで情報の定着を図る
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		ホームページ掲載
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		第三者とは行っておらず事業所間でのみである
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	88%	13%	定期開催	研修の機会は設けてはいるが内容は偏ってきているので改善は必要
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	88%	13%	保護者、他機関との連携	過不足なく行えていると思うが、個人的には満足することなく改善を図っていく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	88%	13%	独自の物	新しい認識を得たいので改良中である
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	定例化	負担にならない発案を促す
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	定例化	バラエティーに富んでいるとは思いますが、物によっては固定されているものもある
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	ミーティング	日々のミーティングで行うが長期休みなどは事前事前に行う事で切迫しないようにする
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	88%	13%		アセスメント同様変化は必要に思う
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	75%	25%	ミーティング	習慣化していることもあり簡素化しないように注意していく
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	SNSの活用	ミーティングの内容を残しておくことで振り返りなど行い易いようにしているが見やすさや引き出しやすさなど改良は必要
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	SNSの活用	上記同様見やすさ、引き出しやすさが必要
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	63%	38%		定期的に行いすぎでおり適宜とは言い難い
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	75%	25%		万全な形に沿っていく

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		参画は出来ている
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	情報共有	保護者がメインではあるが、場合によっては学校等をメインに連携している
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%		医療的ケア児の受け入れを行っていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%		年齢にもよるが関係機関から情報の共有を行っている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	38%	63%		児童や地域差はあるが機会は増えている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	25%	75%		参加機会は多くないので参加機会を増やしていく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		スタッフの子、利用児の兄弟のみは変わらずである
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	検索	関係市町村で行われている様子はない
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時	送迎時にメインで行っており、その中で必要に応じて、電話や面談といった形で行なっている
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	38%	63%		要望に対してがメインであり、こちらから打診はあれど積極的に行っているわけではない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	88%	13%	伝達方法	誰が聞いても分かるといった意識で臨んでいる どう伝えることが分かりやすいのか模索している
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	75%	25%		相談に対してはその都度応えている 成果を挙げられるよう知識や手技の向上を図る
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	25%	75%	イベント	イベント開催も行っているが参加率が高いというわけではない
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		マニュアルもあり周知も進めているが実働はしていない
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0%	100%		会報という物はなく、予定・周知案内等はその都度渡している 会報の発行は検討していない
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		労働契約時に個人情報について交わしている 掲示、処分などその都度説明もしている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	88%	13%		保護者に関しては文面口頭等、行い易い形をとっているがパターンは少ない
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		現状求められていない

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	88%	13%	簡素化	個人的なものに走りすぎているので自重は必要に思う
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	88%	13%	プログラム	形式が固まりすぎに思うので災害の幅は広げていく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	25%	情報収集	研修内容など有り体な形に思う。情報量を増やしていけるような試合の場を増やす
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	75%	25%	情報収集	上記同様有り体な形だけではなく思慮を深めていきたい
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	掲示	食品のある場所など複数掲示しておき注意を図る
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	掲示	共有や確認が行い易いよう掲示している